



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2014年(平成26年)4月25日号 No.1626

目次

■ 2013年のNIS諸国の経済(下)	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2014年5月号のご紹介	12
■ 為替と株	13
■ トピックス	13
タウが日本製エンジンオイルをロシアへ販売 / 13	
秋田清酒、ロシア向け輸出を開始 / 13	
旭川とユジノ市議会、旭川家具導入の合意書を締結 / 13	
フォード・ロシア工場が操業一時停止 / 14	
ウクライナで自動車リサイクル税廃止 / 14	
第4回極東ロシア・韓国フォーラム開催される / 14	

2013年のNIS諸国の経済(下)

はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会および各国統計局発表のデータにもとづき、2013年の経済実績を中心に、NIS諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。

今回は、全12カ国の主要経済指標を表にまとめて掲載するとともに、NIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けした。今号では中央アジア諸国(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン)および南コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、グルジア)を扱う。

なお、前回掲載した表に、一部データの誤りがあった。また、その後追加で発表された指標もある。そこで、修正・追加を反映した表を再掲載する。

カザフスタン： 堅調な成長、通貨安と改革が一層の追い風に

2013年、日本とカザフスタンの貿易は、独立直後の1993年以来、初めて日本の出超を記録した。従来は総額の90%以上を占めるフェロアロイの輸入により、日本側の大幅な入超となるのが常であったが、その様相を変えたのが2009年以降、急増した自動車の輸出である。2013年の日本の輸出の55.4%、約3.9億ドルを自動車が進め、そのほぼ100%が新車であった。

日本からの新車輸出の増加は、近年のカザフスタンの順調な経済成長を示す一つの証左である。端的に言えば、安定した日本車購買層が現れるほど、国民生活が豊かになったということだ。世銀